

にいがた文化

第10号

2025年3月



表紙でたどる「にいがた文化」のあゆみ（中央が創刊号）

各号の主な内容と表紙説明は4ページ

活動報告

《6年度》

企画展

三つの企画展を開いた。新潟日報紙面に載った絵画・挿絵の原画展、『大日本地名辞書』の吉田東伍展、酒博士ともいわれる発酵学の権威・坂口謹一郎展。

新潟日報掲載絵画原画展

（6年4月2日～7月7日）



「新潟日報掲載絵画原画展」解説会

昭和30年～50年代に、新潟日報の新年号を飾った絵や広告情報誌の表紙にあらわれた絵のほか、エッセイなどの記事に添えられた挿絵の原画を展示した。新潟日報社に所蔵されているものを借り

た。原画のないものは掲載紙面のコピーを展示した。

監修をお願いした美術評論家・横山秀樹氏が、講演でそれらの絵と作家について解説し、新潟日報が紙面を通じ、また県展を開催することで

新潟の文化発展に大きな影響を与えたことを力説した。県展には多くの著名作家が審査員として関わり、その作品も紙面を彩っていた（講演要旨は8～9ページ）。

この展示で思わぬ発見もあった。新潟日報のエッセイ企画「新潟への賀状」（新潟で勤務経験のある人が新潟への思いを綴った）に、NHKの連続ドラマ「虎に翼」の主人公モデル三淵嘉子さんが登場していた（挿絵は関屋俊彦さん）。

生誕160年 吉田東伍展

『大日本地名辞書』を中心に

（7月30日～11月3日）



吉田東伍展

吉田東伍（1864～1918年）は13年の歳月をかけ、一人で項目数4万項にもおよぶ辞書を完成させた。

た。その土地の歴史や風土、文化といった範囲にまで及ぶ内容はまさに地誌であり、日本各地で地名研究が進められるきっかけとなった。東伍は地震やほかの自然災害にも研究の範囲を広げ、平安時代に起きた貞観地震のことを論文にまとめていた。

吉田東伍記念博物館、吉田家、県立図書館などからも資料などを借りて足跡をたどり、災害研究の先駆者であることも関係資料で紹介した。東伍の研究領域が分野を超えていたことを、吉田東伍記念博物館の前館長・渡辺史生氏が「超域学者」と名付け、その業績を語った（要旨は5～7ページ）。

没後30年

発酵学の父 坂口謹一郎と短歌

（11月26日～7年3月9日）



坂口謹一郎相関図

応用微生物学者で発酵学の権威・坂口謹一郎（1897～1994年）の歌人としての一面に焦点を当てた。

「障りなく水の如くに咽喉を越す酒にも似たるわが歌もがな」。坂口は故郷を愛し酒を愛した。

博士は高田（現在の上越市）に生まれ、東京帝国大学農学部に進んだ。日本で初めて微生物学研究所の場となる「応用微生物研究所」を創設した。酒や味噌など麹菌を利用した醗酵の過程を化学的に解明するなどした応用微生物学の世界的権威だ。歌人としての評価も高く、昭和50

（1975）年、新年歌会始の召人を務めた。

上越市の坂口記念館、武蔵野酒造、杉田味噌醸造場、新潟市の石本酒造、新潟県醸造試験場といった各所から、博士が歌をしたため色紙などを借りた。また、陶芸家・齋藤尚明氏からは書き入れ茶碗や絵皿など父・三郎さんや自身と坂口博士との合作作品を貸していただき展示した。専門の「発酵」に関係する人物、短歌関係の人物と博士との関係を相関図にまとめ展示した。

トピック



「中国学」分野の「生没年グラフ」

◇生没年をグラフ化 常設展示の分野別パネルの「中国学」コーナーに、パネルで紹介している人物（8人）の生没年をグラフ化したものをつくって展示した。「文学」「美術」「医学」「女性」分野はすでに作製済み。簡単な年譜にもなっており、当該人物がどのような時代に活躍したかや著作を発表した年が分かる。

チラシ・ポスターは なくせない

アンケートから

郵便料金が上がった。チラシ発送などどう対応しているか、併せて発送作業の実態を聞いた（回答40館・団体）

「送る枚数を減らした」7、「送る相手の数を絞った」1。「従来通り」が大半。方法は郵送がほとんどで、「新聞折り込み」1、「イベントで従業員が配る」1、「持ち込めるところへは直接」1、「公立施設では庁内便や連絡便で」2、「市職員が配達」1など。

「作らない」「やめた」ところもあった。理由は「企画展をやめたから」1、「予算や人員の都合」1、「ホームページと新聞の告知欄活用」1、「パンフを送る」1、理由不明1。SNSも活用するところが多数だが、情報を「商店組合のホームページに入れてもらう」という団体もあった。

作業は職員だけのところが多く19カ所。「アルバイトのみ」3。残りは職員とアルバイト・ボランティアで。日数は「2日以内」20、「3日、4～5日」4。「7日」1。送付先は30から3600カ所（佐渡博物館）まで、総枚数も100枚から最高3万枚（県立近代美術館、同歴史博物館）と幅があった。（記入31館）

「チラシ・ポスターを見て来館している」と、必要性を指摘する声も多く、ほとんどの館・団体が「今まで通り作る」と回答した。

出前講座

◇「相関図から見る吉田東伍の人的ネットワーク」

（6年11月9日、阿賀野市の安田交流センター・風とぴあ）担当Ⅱ当館・石垣雅美学芸員

阿賀野市出身の歴史地理学者吉田東伍（1864～1918年）の幅広い人間関係について講演した。

兄弟や縁戚関係にあった人たち、『第日本地名辞書』をはじめとする著書執筆や



出前講座「吉田東伍のネットワーク」

研究分野で関係のあった人たちが、伍のつながりを、相関図をもとに紹介。参加

た様子だった。

にいがた文化の記憶館と吉田東伍記念博物館はそれぞれ東伍の生誕160年を記念し、企画展を開いた。相関図は石垣学芸員が作成し、記憶館の企画展で展示した。

教育機関との連携

■職場体験

新潟市立鳥屋野中学校2年生3人。（6年7月2、3日）

ポスターの貼り替えや受付での来



吉田東伍相関図

者は、東伍が研究分野を超えてさまざまな人物とつながりのあったことにあらためて感心し

館者対応、企画展が間もなく終わることを知らせるチラシを作った。チラシはメディアアシップビルの1階にあるポスター掲示場所に貼った。



鳥屋野中生がつくったチラシ

また、館のPRのためのポスターを作ってくれた。A3の大きさで、ラミネート加工したりっぱなもの。



鳥屋野中生が制作した記憶館ポスター

（5月16日）、小針中2年生5人（7月5日）地域の魅力・観光資源の再発見というテーマで来館。常設展示を見た職員に質問をしたりして、にいがたからさまざまな分野で先駆的役割を果たした文化人が生まれていることを学んでいった。発信に期待！

■臨地実務実習

開志専門職大学（本部・新潟市中央区紫竹山）アニメ・マンガ学部2年生3人（6月～8月）

5年度企画展で取り上げた作家新井満を4コマ漫画にする課題に挑戦した。新井の多方面にわたる創作活動について学び、エピソードをどう表現するか、3人でさまざまなアイデアを出し合い取り組んだ。また、県内中学校に送る文化人パンフレットの発送作業をした。

■地域学習

新潟市立寄居中学校2年生4人

10号となるのを機に「にいがた文化」のこれまでを 主な内容で振り返った。

講演・対談鼎談もタイトルだけとした人名の（ ）は出身地

創刊号（平成28年3月）

▽「法律と文学の両道を歩んだ平出修」。大逆事件の弁護人として知られる平出修（新潟市）の足跡と、顕彰活動のこれまで。

表紙 落谷虹児《異国の友と》（少女雑誌「令女界」1929年9月号付録絵はがき）

2号（29年2月）

▽シンポジウム「越後人のねばり」鈴木牧之（塩沢）、諸橋轍次（三条市）、吉田東伍（阿賀野市安田）。関係者が語る3人の功績と新潟県民の県民性。

表紙 土田麦僊《湯女 大下絵》（佐渡博物館）

3号（30年1月）

▽講演①「出版文化をつくった越後人」。博文館創設の大橋佐平（長岡）、豪華本出版の第一書房創設の長谷川巳之吉（出雲崎町）ら②「青山杉作と俳優座」。俳優座をつくった青山杉作（紫雲寺＝新発田市）③「映画《ほかいびと》伊那の井月」。一茶と子規の間の俳句史を埋める俳人・井上井月（現在の長岡市）。

▽各館取り組み紹介 坂口記念館、巻菱湖記念時代館

表紙 井上井月句碑（企画展「漂泊の俳人井上井月」ポスター）

4号（31年3月）

▽講演①「現代情報化社会の先達」。近代的インフラの基礎を築いた

前島密（上越市）と、日本で最初の私立図書館をつくった大橋佐平ら②「父・堀口大學（詩人・旧制長岡中卒）」③「ボーダーレス文学世界」大衆文学編。純文学と大衆小説とを区別することを否定した坂口安吾（新潟市）長谷川海太郎（佐渡市赤泊）④「能楽入門」

▽各館取り組み紹介 ドナルド・キーンセンター 柏崎、糸魚川歴史民俗資料館

表紙 川上四郎《童謡画集2表紙》（湯沢町寄託）

5号（令和2年3月）

▽対談「良寛再発見」。良寛の顕彰活動の歴史

▽講演①「新潟の医学近代化のあけぼの」命を支えた医師たちの足跡②「明治の医学教育者・長谷川泰」。長谷川泰（長岡市）は日本初の私立医学校の創設者③「新潟に残る東映映画の足跡」

▽座談会①「デイズニーを目指した男・大川博」②「大川博と東映を語る」。大川博（中之口村＝現・新潟市西蒲区）は東映の初代社長。

▽各館取り組み紹介 吉田東伍記念博物館

表紙 平沢屏山原画、塩田順庵・西島秋航賛《蝦夷人種痘之図》（幕末、新発田藩出身の種痘医の桑田立斎らがアイヌに集団接種する様子）

6号（3年3月）

▽講演「森蘭齋と南蘋派」。南蘋派は、江戸中期、中国清の画家・沈南蘋の影響を受けて生まれた画派。森蘭齋（現在の妙高市）は南蘋の弟子に師事。

▽各館取り組み紹介 諸橋轍次記念館

表紙 森蘭齋《龍虎之図》、三国志武人之図

屏風

7号（4年3月）

▽映画上映「明け行く空」（日本映画初の女性脚本家水島あやめ脚本）

本作品）脚本風に再現。

▽講演①「日本初の女流脚本家・少女小説作家水島あやめ」。水島（南魚沼市）の社会的地位と昭和初期の映画産業②「尾竹竹坡」作品の変遷。画家尾竹竹坡（新潟市）の少年時代から晩年までの作品の変遷や特色。

▽各館取り組み紹介 前島密記念博物館

表紙 尾竹竹坡・尾竹国観《松木一木》双幅

8号（5年3月）

▽講演①「宮柊二 命へのまなざし」。宮柊二（堀之内）は戦後歌壇をリードした歌人。命あるものすべてを慈しみ尊んだ②「鷺尾雨工の作品と生涯」。雨工（西蒲・黒鳥＝現在の新潟市）は経済的には困窮しながらも文学の道を諦めず、「吉野朝太平記」で県人初の直木賞を受賞した。

▽各館アンケート「コロナ感染症の影響」。令和4年度までの入館者の減少度合いや課題、悩み。

表紙 教育者増村朴斎筆「学規」衝立（上越市）。有恒学舎（現・県立有恒高校）を創設した朴斎（板倉＝現上越市）が説いた「人の道のあるべき姿、学問をする意味」。

9号（6年3月）

▽鼎談①「ヒット曲（千の風になつて）誕生秘話」。曲の訳詞・作曲者で2021年に亡くなった新井満（新潟市）さんが歌に託したものを想いにした人たちが読み解く②「戦没画家・金子孝信 絵に託した想い」。ゆかりの人たちが都会的センスにあふれた金子（新潟市）の絵の魅力を語る。

▽「名前の漢字」

表紙 諸橋轍次博士編「大漢和辞典」の、印刷のための紙型と鉛版（諸橋記念館）。鉛活字を組み、それをもとに紙型と鉛版を作り、印刷した。

10号目次

◆6年度活動報告 企画展ほか

- アンケート「ポスター・チラシの制作・発送」

◆「にいがた文化」1号～9号の歩み

◆6年度企画展記念講演会

- ①「超域」学者吉田東伍

2～3

3

4

5～7

②ふるさとにいがたの作家たち

8

◆県内の文化人顕彰施設・団体の情報

10～16

◆協賛企業・法人広告「文化力を発信します」

10～15

◆その他

- 6年度法人パスポート会員・維持会員

15

分野を超えた知の巨人

『前吉田東伍記念博物館館長・渡辺史生さん語る』

歴史地理学者 吉田東伍
(1864〜1918年、阿賀野市安田出身)の偉業を学ぶ講演会「超域学者」吉田東伍の仕事その災害史研究(貞観地震・津波論文)から観る」を開いた。吉田東伍記念博物館の前館長渡辺史生さんは東伍の業績と東伍が現代のわれわれに問いかけていることについて語った。東伍は13年の歳月をかけ一人で項目数4万を超す『大日本地名辞書』を著し、その研究は能や災害にも及んだ。そして地誌を学ぶことの大切さを説いた。

× ×

地名、能楽、倒叙日本史

渡辺 超域という言葉は広辞苑には載っていないが、東伍の項では経歴と主要な著作として『大日本地名辞書』『世阿弥十六部集』『倒叙日本史』の三つを挙げている。「大日本地名辞書」も『世阿弥十六部集』も項目を立てている。つまり広辞苑には人名を含め三カ所に東伍の名前が出ている。こ

ういう人物は私の知る限りほかにはない。

『世阿弥十六部集』は能の秘伝書、能楽論集だ。東伍が校訂し刊行して世阿弥の存在を明らかにした。『倒叙日本史』は現代から書きだして歴史を昔にさかのぼる記述方法。普通、歴史の本は原始古代から近代、現代へと通史的に書く。東伍以前にはなかったやり方で、今の立ち位置、自



「超域学者」吉田東伍」講演会

分がいる場所から歴史を眺めていくという東伍の思想を反映したものだ。

3・11と貞観地震

吉田東伍は『地名辞書』の編さん過程で、平安時代の869年に東北地方を襲った大地震・津波についても論考をまとめている。その論考が2011年3月の東日本大震災を契機に、いわば再発見という形で注目される。

渡辺 2011年3月11日に東日本大震災が起きた。そのとき「千年に一度の地震だ。想定外だ」とみんな言った。実際、1100年以上前の平安時代、同じエリアで同じような規模の地震が起きている。貞観地震と言われる地震だ。

東伍がこの地震のことを研究し、明治39(1906)年に『貞観十一年陸奥府城の震動洪溢』という論文を発表していた。このことが分かったのは、3・11で、福島から新潟に多くの人が避難してこられたとき、阿賀野市の避難所に届けられた新聞の中に「この地震は貞観地震の再来」という文言があったからだ。

想定外ではない

渡辺 それを見て確か東伍の論文の中で「貞観」という文字があったはずだと、「歴史地理」という雑誌の復刻版を見て驚いた。明治39年12月に『貞観十一年陸奥府城』という論文を書いていた。3・11は「想定外、誰も知らなかった地震だ」と報道されているが、似たような災害が千年前に起きていた。

当館の友の会のブログに解説をつけて全文を載せたら、普段1日1桁のアクセスが3桁に増えた。「吉田東伍というのが貞観地震を研究している」と専門家の間でも話題になり、大きな反響を呼んだ。

関東大震災を予言し地震の神様といわれた今村明恒という人も貞観地震を研究していた。東伍がこの人よりも前に研究していて、東伍が貞観地震研究の先駆者ということが分かり、注目された。

吉田東伍は地震被害のあったと思われる地域で、幾つかの城郭に注目し、その位置や土地の起伏、河川水系を調べ、論文の中で津波の到達点を結論づけている。

渡辺 平安時代の三代の天皇の事績を記した書物『三代実録』というのがある。その清和天皇の時代の部分に貞観地震の記載「陸奥に地震があつて城のところまで水が迫った」



吉田東伍の研究対象は多岐にわたった

とあった。東伍は「城のところまで」は「津波が多賀城の城下に至るまで達した」ということだと、初めて論証した。宮城県の大賀城市だ。貞観地震の痕跡が多数あるのだと言い、平野部には津波の痕跡があったと推測している。既にこう指摘されているのに、なぜ東日本大震災が想定外といえるのか分からない。

津波の位置と和歌の歌枕

吉田東伍はまた、和歌に詠まれている歌枕「末の松山」を手掛かりに貞観地震の津波の及んだ範囲を推測する。

渡辺 古今和歌集の「君をおきてあだしころをわがもたば末の松山なみもこえなむ」。私があなたを差し

置いてほかの人を思う気持ちを持つたなら波が末の松山を越えてしまう。つまり前提として波は越えないというのがこの歌枕の持っている意味だ。次に百人一首。清少納言の父・清原元輔の「契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山なみこさじとは」。幾度も涙で袖を絞りながら約束した。あの末の松山をどんな大きな波でも決して越さないと同様、二人の仲も末永く変わらない。「末の松山」はそういうたとえになった。

「末の松山」は多賀城市にあり、島のように残っている。東日本大震災

仙台で図書館通い

渡辺 なぜ東伍がこの論文を書くことができたのか。東伍は21歳のとき、志願兵として仙台に行っている。休みの日には師範学校の図書館に通い詰めた。そのとき読んだ仙台周辺の地誌「奥羽観蹟聞老志」に歌枕のことがかなり詳しく書いてあった。それがきっかけだった。

大震災後、宮城県が震災復興ポスターを作った。多賀城の末の松山で撮った写真が使われている。「波越さぬ丘」ということで、防災の大事な場所だと言っている。この話が高校の国語の教科書に載った。「探求」という分野の「言語文化」の項だ。そ

でも波はここを越えなかった。東日本大震災前まではこの歌枕は、仙台藩が想像で適当に当てはめたという説があつて、どこなのかは特定はできないという研究者もいた。多賀城市史にもそういう記述がある。単に風光明媚な、波がざぶーんとかかり、松の木が生えているところだというふうに考えられていたが、そんなことはない。

東伍の論文が再発見されて以降は、末の松山は間違いなくこの多賀城市の場所だ、それを平安時代の人が歌にしたと解釈されるようになった。



東伍の地震研究関連の展示

こに例の百人一首の和歌が出てくる。〈千年もの昔に詠まれた和歌が過

去と現在とをどう結び付けるか。文学には昔と今をつなぐ接点としての意義がある」と。東伍の論文の公開から13年しかたっていない。その成果が、末の松山の話が教科書に載ったことに驚いた。

超越ということ

吉田東伍の研究姿勢は現代の地震研究者に影響を与えた。

渡辺 東伍は意識せず、論文に百人一首を取り上げている。その土地の歴史を語るときに、和歌を使った。今の研究者は絶対そういうことはないだろう。

3・11の2カ月後に開かれた中央防災会議で「科学だけではなく地形、過去の町のでき方、歴史、和歌なども分析して進め、科学だけに頼らない調査研究が必要だ」という発言があった。明らかに東伍の論文を受けての発言だ。東伍の論文のおかげでそういうものも分析した方がいいのではないかという考えが芽生えた。

それまでは、地震の研究や津波の研究・分析は、どちらかといえば理系の専門家がやっていた。百人一首はその研究家が研究すればいい、私は地震の研究をやります、と。それが、人文科学の研究成果も必要だというふうに流れが変わってきた。

その領域を超えろというのが超越

だ。それはまさに地誌の世界「ある地域の自然・文化などの地理的現象を記述してその地域の特色を示したもの」だ。論文に百人一首を取り上げたのは、そういった観点からだ。

川を知り、土地の歴史を学ぶ

吉田東伍は関東平野を流れる利根川についても研究し、新潟の加治川に関して講演をしている。「水害を防ぐには川のことを詳らかにせよ」と。

渡辺 明治43年、関東一帯を大水害

が襲った。利根川大洪水だ。大きな被害が出た。東伍はその4、5年前から利根川の流路の変遷や、どんな治水対策がとられたかなどを研究していた。

それをもとに東京神田で講演した。「人間というのは水とともに生活して水とともに戦う。それが人間本来の性質だ」というようなことを言っている。群馬での講演では「郷土の地理、郷土の歴史というのとはとりもなおさず、郷土の未来に向かってそ

の応用を待つことだ」と述べた。何のために歴史を研究するのか。未来のためだということ。このことをうちの館のテーマにしている。

研究と講演内容をまとめた『利根治水論考』は、東伍の歴史地理学の中で主著に近い大論文だ。

加治川については大正8（1919）年、新発田で講演し、地誌の必要性を述べている。土地の変遷を調べることが大事だと。土地の変遷といっても人間の生活がその上

森羅万象を扱う、それが地誌

渡辺 『大日本地名辞書』の序文で東伍は「本書は地誌である」といっている。地誌とは「ある地域の自然・文化などの地理的現象を記述してその地域の特色を示したもの」とある。その地域の人文科学の成果、自然科学の成果それを総合したものが地誌だ。

今で言うところ、これは経済だ、政治だ、これは地学だ、植物だ、動物だと、いろんな区分があるが、地誌はそれらを総ぐるみにして記述したもので、極端にいうと森羅万象全部扱う分野ということ。しかも、ローカルエリアという狭い範囲の郷土史ではなく、東伍は日本全土を統合した地誌を作った。それまでにない地名のデータベースだ。



講演する渡辺史生さん

私が大阪に旅行しようとして大阪のことを調べるには、今であればインターネットがあるが、それまでは専門の書物を読むか人に尋ねるしかない。そういう意味で東伍はデータベースづくりの先駆者だ。



東伍の著した『大日本地名辞書』

漢字のデータベースとも言うべき大漢和辞典を作った人物が諸橋轍次博士。越後人はデータベースづくりの先駆者を二人も出している。誇っている。

郷土史研究の素材提供

渡辺 『地名辞書』が刊行された当時、記述内容に対して異論、反論が相次ぎ、悪い評判が立った。もちろんすごい仕事をしたという評価が多かったのだが、出版社に苦情が来たそう。

結果的には単なる地名検索辞典ではなく、その土地の郷土史研究の素材を示したというか、とば口、出発点の役割を果たした。評判を聞いて「自分の住んでいる所はどう書いてあるのだろう」と全国の人が読みだし、その土地のことを調べるきっかけになった。

で営まれているから、人間の歴史を調べるべきだと。

そして「川の性質由来をつまびらにすることだ。そのことをよく研究しておかないと、ひとたび災害が起されれば、救済を誤ることがある」とし、「これはあたかも病の人体におけるがごときものである。人体生理をつまびらかにしないと疾患を治すことはできない」。水害を永遠に防ごうとするにも「すべからく河川の性質を、概要をつまびらかにしてこれを愛護することが肝要である」と。

日本史の教科書に載る

最後に渡辺さんは、東伍を取り上げた日本史の教科書があることを紹介し、その「はしがき」を読み上げた。（吉田東伍を歴史研究に駆り立てたのは何か。近代化の中で置き去りにされた人々を見つめ直そうとして、地域にどのような暮らしがあったか、その答えを見つめようとしたのではないか。：英雄の活躍ではなく記録に残らない人たちの、生きた証しを探し、喜怒哀楽に思いを馳せる。それが歴史に向き合う大事な姿勢だと東伍の研究に学ぶべきだ。渡辺さんは「東伍の研究は以上で言い尽くされている」と締めくくった。（6年10月9日、メディアアシップ）

紙面を彩った画家と作品 豊かな文化が根付く

新潟日報が大きな役割

— 美術評論家・横山秀樹さん講演 —

きた。朝鮮戦争（1950～53）の特需もあり、高度成長に入る。その中で日本が豊かになってきたときに、それを支えていたのが文化だといわれている。

県展が果たした役割

県展が昭和昭和20年から始まった。著名な作家が審査員を務めた。氏名の後のカッコ内は審査年＝平成以外は昭和。《》は作品名。

横山 岩田正巳（21年～23年、25年）は、大正から昭和時代、松岡映久に師事した。やまと絵を描いていた。まじめな人で、一つの絵を何度も見直し、時間かけて描いた。《雪をきく》に、詩人村野四郎の文章。新潟の雪をテーマに頼んだのだと思う。

小野末（48年）は一水会に属した洋画家。小野は安井曾太郎の子供の家庭教師をして一緒に住んで描いていた。安井の死後、安井賞展というのができてその審査員をやった。

富岡惣一郎（平成4年）はシルクスクリーンの技法で下塗りをつくり、その上に黒い絵の具を塗る。そこへ独自に作ったトミオカホワイトを塗って、ひっかくという技法。描いているときは大丈夫でも時間がたつと割れる。絵の具の改良をした。《越後山脈》は描き削ったような形だ。

大矢紀（平成12年）は院展同人として現在も活躍している。令和5年度の芸術院賞を受賞した。

県展審査員は、戦時中新潟に疎開していた著名な作家に依頼する



絵を映しながら講演する横山秀樹さん

紙面を彩る作家たち

審査員以外にも多くの作家が紙面に登場している。（ ）は掲載年

横山 戦後、昭和25年にシベリア抑留から復員して後、活躍した画家が横山操だ。53歳で亡くなり、活躍時期が短かったが素晴らしい作品を残した。もともと生きていれば文化勲章く

ことが多かった。

横山 竹谷富士雄（20年～24年と、52年）は中蒲原出身。竹谷も疎開していた。大きな作品が残っている。小杉放菴（20年）は栃木生まれ。新潟の人は知らない人が多い。赤倉に疎開して別荘を持っていた。郷倉千靱（20年、27年）は富山県人で、郷倉も赤倉に別荘があった。

そのほか橋本明治（42年）田崎廣助（39年）東山魁夷（34年）。森田曠平（51年）東郷青児（43年）加山又造（39年）の名前が挙がった。そうそうたる顔ぶれだ。

横山 審査員をやった日報に絵を描いてくれた人、紙面に絵をお願いしてその後、審査員を引き受けた人。県展とリンクして新潟の文化が形作られ根付いて今日まできた。その役割を新潟日報が果たした。

らいもらつてもおかしくない作家だ。画家は、制作年月日、どここの画商にいくらで売ったという手控え帳とこののを持っている。操の《弥彦山》（42年）は新潟日報が発注して描いてもらった。

49年に新潟県美術館（県立近代美術館の前身）が操の遺作展を開いた。その時、博物館では作品を購入できず、個人が買った。後に、その人

物が亡くなると親族が作品を手放した。そのとき購入することができた。

操は永井龍男の新聞小説「石版東京図絵」（昭和42年、毎日新聞）の挿絵や芥川龍之介の全集の口絵も描いている。操自身（挿絵を描くことに）こだわりがなかったのだと思う。

野生のトキを題材にした吉岡堅二の《朱鷺》（38年）には宮柊二の長歌「朱鷺幻想」が添えられている。

ほかに、母親が佐渡出身の山下清、木下孝則、堀文子、林武、影絵作家の藤城清治、海老原喜之助、奥村土牛、棟方志功の作品が紙面に載っていることが紹介された。



「ふるさとの作家たち」講演会

横山 中央の作家の作品（絵、詩やエッセー）は、新潟のこと書いたも

新聞に重宝された挿絵

＝挿絵で作家が育つ＝

横山 画家が絵を描いてすぐに売れることはまずない。いろいろな作家が、新聞小説にカットとして挿絵を描いて、毎日の糧を得ていた。挿絵を使ってもらうことによって、画家が育っていったといっても過言ではない。

今の作家は、挿絵を、自分が描いている絵より下の次元だと考え、自分はちゃんとした画家だという方もいるが、挿絵をやることによっていろんな勉強もできるという面がある。

有名な作家では鏑木清方。ものすごく挿絵を描いていた。そういうレベルの人たちも挿絵をやることによって育ってきた。

エッセーなどには挿絵が付きものだ。横山さんは挿絵を描くことも作家の勉強になると力説。

横山 ジャンルでいうと挿絵は版画。版画というと、浮世絵までさかのぼる。浮世草子とか草双紙があるが、ああいうものについている版画も挿絵に分類していいだろう。

日本で新聞や雑誌で挿絵が使われたのは明治時代から。明治7(1874)年、絵入り新聞社が発行した東京ひらがな絵入り新聞、そこに添えられた絵が始まりだといわれている。明治時代の新聞は、写真を使うより挿絵の方が安くあがったみたいだ。新聞社にはお抱えの画家がいて挿絵的なもの、いろんなものを描いていた。

が多い。そのように頼んだようだった。それが芸妓を描いた《新粧》（41年）。詩人深尾須磨子を書いた詩「おのずからの美」が添えてある。

横山さんは、新潟日報が、当時すでに著名な作家に作品を依頼していたことに驚く。その一つがタ刊の週1連載「夕閑帖」だ。武者小路実篤が文章とカットを描いている。

横山 実篤は小説家で詩人で画家でもある。1年間書いてもらっている。今の中央紙でもできないことで

はないのか。仏文学者渡辺一夫が文章を書いて大御所福澤一郎のカットの片岡球子。

明治時代と違い絵の方が高く売れる時代にカットを描いてくれた。頼みに行ったら描いてもらうのは大変だったろうと思う。

新潟の作家もカットを描いている。昭和52年の連載「わが新潟への賀状」(NHKのドラマ「虎に翼」のモデル三淵嘉子さんも寄稿)に関屋俊彦の絵がある。

長井亮之も描いている。《花》は長

井さんの性格で、几帳面で非常に完成度が高い絵だ。

風土性ということ

横山 小島丹漾は新潟市のシモの出身。三越の意匠部で図案を描いていた。風土性の強い絵を描いた。《越後新雪・越後湯沢にて》（48年）

酒井三良という福島出身の作家がいた。小島とともに風土性の豊かな絵を描いた。この人たちが生きていくときにそういう作品が院展に入っていた。

ところが《シルクロード》で知られる平山郁夫氏が理事長になったら仏教絡みの作品が入選するようになり、風土性や土着性豊かに描かれた作品が入らなくなった。丹漾が長生きしていれば違っていたのではないか。

いま《河口暮色》のような風景は見られない。《凍》は車で汽車を待つ人々。角巻をしている。丹漾は郷土色豊かな絵を描いていた。

三輪晃勢の《トキ》（52年）は新潟日報の《ふるさとを描く》シリーズの1枚。《木屋町の家》は京都の木屋町。直線で構成した非常に斬新な絵だ。日展ではこういう絵を描く人がいなかった。

（6年6月30日、メディアアシップ・ナレッジルーム）

新潟県内の 文化人顕彰施設・団体からの PR情報

佐渡、下越（新潟市含む）、中越、上越の市町村別（新潟市は行政区ごと）に、50音順に掲載。開館日、開館時間など詳細は各施設・団体にお尋ねください。各館の情報は、にいがた文化の記憶館ホームページでも紹介しています。

00 館名／団体名

顕彰している新潟ゆかりの文化人

PASS

住所
電話番号

PR情報

PASS

…この館で「新潟文化の記憶館パスポート」をご提示いただくと割引が受けられます。また、この館の「平券」を当館で「提示いただく」と入館料を団体料金に引き引きします。

1 佐渡博物館

佐渡市八幡2041
0259(52)2447

佐渡の自然・歴史・芸能などの資料を展示する総合博物館です。常設展示室のほかにも中庭では佐渡島内の岩石からなるロックガーデンをご覧いただけます。

2 佐渡歴史伝説館

佐々木象堂

佐渡市真野655
0259(55)2525

佐渡の人間国宝・佐々木象堂の足跡をたどることができます。数々の挫折を乗り越えた彼の精巧な作品は、訪れる人々に深い感動を与えます。象堂の情熱と技術が息づく芸術の世界に触れ、心に残るひとときをお楽しみください。

3 巻菱湖記念時代館

巻菱湖／館柳湾／亀田鵬斎など

新潟市東区河渡庚296-33
080(4159)2581

空海御生誕1250年企画「空海の庫を開く」と題し、文字文化遺産をウェブ・書籍からご覧いただける企画を進めています。時を超えて現存する墨宝は各々存在意義があり、過去から現代、現代から未来へ文化遺産を引き継いでいます。

4 「安吾 風の館」事業室

坂口安吾

新潟市中央区西堀前通六番町894-1
西堀六番館ビル5階
025(222)3062

新潟市出身の作家、坂口安吾を顕彰するため、遺品・所蔵資料を活用した展示や安吾作品の解説、講演を行っています。ホームページ「坂口安吾デジタルミュージアム」にて情報発信しています。ぜひご覧ください。

日本最大級29の専門学校

あらゆるジャンルをカバーする
248学科485コース



NSGカレッジリーグ



コニカミノルタNC株式会社

本社 〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地1-2-13

TEL (025)383-3000 FAX (025)383-3001

URL <http://www.konicaminolta.jp>

富山支店 / 長岡営業所 / 新潟営業所 / 上越サービスステーション

業務内容：コニカミノルタ複合機 bizhub・医療機器・

商用印刷機の販売及び保守

イベント機器のレンタル 他

就職に強い！ 開志専門職大学

就職情報は
こちらから

開志専門職大学
KAIZHI PROFESSIONAL UNIVERSITY



愛され 選ばれる ゴルフ倶楽部を創ろう



紫雲ゴルフ倶楽部

〒957-0236 新潟県新潟市元町211
TEL:0254(41)2471 FAX:0254(41)3174
<https://www.shiun-gc.co.jp>

會津八一が愛した 新潟の和菓子



里仙

本店 / 新潟市中央区古町13
☎(025) 228-9234(代)

5 安吾の会

坂口安吾

新潟市中央区八千代2-1-1
新潟市民映画館シネ・ウインド内
025(243)5530

1987年10月20日発足。会報「安吾雑報」、研究誌「安吾探索ノート」発行。「新潟安吾忌」を主催するほか、読書会や街歩きを実施。「安吾生誕祭」企画・運営。読書会、定例会の日時・会場は直接お問い合わせください。

6 秋艸会(しゅうそうかい)

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1
メディアシップ5階會津八一記念館内
025(282)7612

秋艸道人・會津八一を顕彰し文芸に触れる新潟市會津八一記念館友の会です。会報「秋艸」を年2回発行。記念館の企画展等を紹介し八一に関する投稿掲載など全国の会員を繋いでいます。命日(11月21日)には「秋艸道人忌」を主催。

8 敦井美術館

敦井榮吉

新潟市中央区東大通1-2-23
北陸ビル
025(247)3311

近・現代の日本画・陶芸を中心に、洋画や彫刻・木漆工芸など幅広い所蔵品による企画展を年4回開催しています。2025年度は「彫刻と金工展」「栗木達介と現代陶芸展」「秋の絵画工芸展」などを予定しております。

9 新潟県立図書館

全般

新潟市中央区女池南3-1-2
025(284)6001

1915年の創立から収集してきた蔵書96万冊のうち、約14万冊が新潟県人関係資料を含む郷土資料です。当館ホームページで公開している越後佐渡デジタルライブラリーでは、貴重な郷土資料を画像でご覧いただけます。

11 新潟市立中央図書館(ほんぼーと)

會津八一／坂口安吾／中田みつほ／吉屋信子／鷺尾雨工など

新潟市中央区明石2-1-10
025(246)7700

顕彰人物である5人を中心に、新潟市ゆかりの文人についての関連資料を収集しています。2階特別コレクション室では、新潟市ゆかりの文人などをテーマに、出版当時の貴重な資料を含めた企画展を年数回実施しています。

12 新潟市歴史博物館(みなとびあ)

全般

PASS
新潟市中央区柳島町2-1-0
025(225)6111

令和7年度春季企画展は「にいがたてしごと・ものづくり」展(4/12〜6/8)を開催します。豊かな自然に囲まれ、歴史・文化を育んできた新潟の「てしごと」や「ものづくり」とくらしとの関わりから、地域の魅力を再発見していただく機会とします。

14 新潟良寛会

良寛

新潟市中央区古町通4
考古堂ビル内
025(229)4058

毎年4月に総会と記念講演会、良寛・貞心尼法要。秋に研修旅行、良寛講座3回。良寛碑・像の清掃ボランティアなど良寛の慈愛の心を広める活動。会員募集(会費・年2千円)。行事には会員以外の参加も歓迎。

15 北方文化博物館

伊藤家ゆかりの人物／その他

PASS
新潟市江南区沢海2-15-25
025(385)2001

越後随一の大地主、伊藤家の遺構を博物館として公開しています。1882年から8年をかけて建設された大邸宅、大広間から眺める池泉回遊式庭園など、新潟の四季とともに地域や地主の歴史、所蔵美術品を紹介しています。鎌倉時代の高僧・雪村友梅の書軸「梅花詩」(重要文化財)を所蔵。

7 全国良寛会

良寛

新潟市中央区南浜通2
北方文化博物館新潟分館内
025(222)2262

「裏を見せ表を見せて散る紅葉」―良寛はこんな句を残しました。手にした理想の時間を楽しむ歌があります。「この里に手まりつきつ子供らと遊ぶ春日はくれずともよし」。人生の伴侶に、良寛はいかがですか。

10 新潟市會津八一記念館

會津八一

新潟市中央区万代3-1-1
メディアシップ5階
025(282)7612

1975年に地元企業や一般市民の浄財をもとに建設された會津八一記念館は、移転を経て今年で開館50周年を迎えます。八一の研究者や八一が「酷愛」した奈良の有名寺院から講師を招く連続講演会を中心に皆様をお迎えします。

13 新潟大学旭町学術資料展示館

中田瑞穂ほか

新潟市中央区旭町通2番町746
025(227)2260

第3代(現・萬代橋と同じ1929(昭和4)年竣工の国登録有形文化財。新潟大学が学術研究を通して収集・蓄積した考古資料・標本類・実験機器などを常設展示するとともに、様々な分野の企画展も開催しています。(日・月休館)

16 吉田千秋・ちあきの会(吉田文庫内)

吉田千秋

新潟市秋葉区大鹿624
0250(23)7070

「琵琶湖周航の歌」原曲作者「吉田千秋(吉田東伍の次男)」の周知活動を続けています。小中学校での学びのお手伝いやコミイベントへの情報提供です。千秋生家は非公開となっております。

17 新潟市曾我・平澤記念館

曾我量深／平澤興

新潟市南区味方213-1
025(373)6600

記念館では、旧味方村名誉村民「曾我量深(第17代大谷大学学長)」、「平澤興(第16代京都大学総長)」おふたりの愛用品や出版物他、功績を讃える遺品を展示しています。

18 雪梁舎美術館

新潟県ゆかりの美術家

新潟市西区山田451
025(377)1888

86畳敷きの展示室を有する美術館です。毎年夏には美術育成を目的とした全国絵画公募展「フイレんツエ賞展」を開催し、大賞受賞者にイタリア・フイレんツエ市での研修を授与しています。常設展のマイセン磁器、シャガールの版画のほか、年間を通して企画展を開催しています。

19 越佐文人研究会

良寛・曾津八一の周辺人物

新潟市西蒲区下山340-2
0256(88)5335

7月新潟市中央区、10月西蒲区、11月新発田市内で書画文芸展を開催。11月総会および機関誌28号を発行します。

20 遠藤実記念館 実唱館

遠藤実

新潟市西蒲区越前浜6913-1
0256(77)2777

「昭和歌謡の聖地」として、作曲家・遠藤実が心のふるさとである新潟に、その足跡を残した音楽の館。今もなお、色褪せることのない「遠藤実メロディー」を目と耳でご体感いただけます。カラオケ喫茶のステージで歌えます。

21 新潟市湯東樋口記念美術館
新潟市湯東歴史民俗資料館

赤塚不二夫／尾竹三兄弟／金子孝信

新潟市西蒲区三方92
0256(86)3444

多岐に渡る樋口頼嗣氏寄贈作品・郷土ゆかりの作家作品(赤塚不二夫・尾竹三兄弟・安宅安五郎・長谷川秋一郎・福富雪底他)・金子孝信作品・ありし日の鎧湯資料を展示しています。また、秋には特別展を開催する予定です。

22 新潟市中之口先人館

羽黒山政司／小柳司氣太／大川博

新潟市西蒲区中之口363
025(375)1112

中之口出身でさまざまな分野で活躍した先人の業績を示す資料を展示しています。特に第36代横綱羽黒山政司の資料がたくさん展示されています。ほか小柳司氣太や大川博の資料も展示しています。



大光銀行
〒940-8651
長岡市大手通1丁目5番地6
<http://www.taikobank.jp/>
大光銀行 検索



我々の使命は、お客様に感動と喜びをお届けすること。
SHINSEN Co., Ltd.
株式会社 新宣
<https://shinsen.biz/>
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-3-4
TEL 025-243-6827(代) FAX 025-241-0768

『伝えたい』を
多彩に、
クリエイティブに。
<https://www.dip.co.jp/>



DIPalette TEL 025(285)7161(代)〈企画開発本部〉
本社/〒950-8724 新潟市中央区和合町2丁目4番18号 第一和合ビル



第四北越銀行
サステナブルな社会の実現に貢献します



「安全第一で荷主に信頼される会社」
「常に変革し続ける会社」
新潟鉄道荷物株式会社
〒950-0868 新潟市東区紫竹卸新町1080-10
TEL 025-270-5163
FAX 025-270-2183

スマホ防犯は、ALSOK。
HOME ALSOK Connect
Always Security OK
ALSOK 0120-39-2413
新潟総合警備保障株式会社
<https://www.ngtalsok.co.jp/> 新潟総合警備保障 検索

23 市島邸

市島家ゆかりの人物

新発田市天王15563
0254(32)2555

市島邸資料館では、市島家の歴史を伝える企画展示を行っております。600坪に及ぶ県指定文化財の母屋と桜や約150本の梅の花・紫陽花・紅葉・雪景色など、四季を通して魅力的な回遊式庭園をお楽しみください。

26 燕市 長善館史料館

鈴木文臺／鈴木虎雄／長善館ゆかりの人物

燕市粟生津97
0256(93)5400

長善館は、1833年から1912年までの80年間に1000人以上の人材を輩出した私塾です。館内には、塾の歩みや特色ある教育内容、卒業生の業績等を紹介しています。文化勲章を受章した鈴木虎雄博士の漢詩や遺品なども展示しています。

29 春城会

市島春城

阿賀野市山口町213125
春城生誕160年を記念して4年9月、

生家離れ跡地に宿願の胸像建立が成った。「館」はないが、顕彰と跡地保全のモニュメントができたので一人春城にとどまらず広く郷土の先人に光を当て、歴史・文化情報の受・発信の拠点にしていきたい。

32 諸橋轍次記念館

諸橋轍次

三条市庭月4341
0256(47)2208

世界的な偉業と讃えられた『大漢和辞典』の編纂者、諸橋轍次。座右の銘は『論語』の「行不由徑」。自然豊かな故郷をこよなく愛し、漢学研究と教育の大道をひたむきに歩んだ諸橋轍次の生涯や功績、その人柄を紹介しています。

24 刀剣伝承館 天田昭次記念館

天田昭次

新発田市月岡温泉827
0254(32)1121

人間国宝・故天田昭次氏が月岡の地で挑んだ、自家製鉄による独創的な刀剣製作。鍛刀技術の追求の結晶を収蔵しています。太刀、脇差、短刀など、一般的な刀剣のみならず、七支刀などの特殊な形状をした刀剣も展示しています。

27 燕市分水良寛史料館

良寛

燕市上諏訪919
0256(97)2428

良寛書の中でも珠玉の名品といわれる国・県指定文化財の作品を春、秋の二回特別展として公開し、県内外の多くの人々から良寛芸術の真髄に触れてもらい、良寛を支えた地域の人と文化風土を再認識し、学習する場とします。

30 国指定重要文化財「渡邊邸」

渡邊萬寿太郎

関川村下関904
0254(64)1002

渡邊家11代当主の渡邊萬寿太郎は、現在の六三制学校制度の礎となる「関谷学園」の創立に尽力しました。旧関谷村長として、江戸初期から続く渡邊家の「家の掟」に基づき、地域振興・文化発展に貢献しました。

33 駒形十吉記念美術館

駒形十吉

長岡市今朝白21114
0258(35)6111

当館は、実業家駒形十吉晩年のコレクションを収蔵・展示する美術館です。静かな環境で速水御舟・村上華岳・加山又造・平山郁夫などの日本画、さらに陶芸もご覧いただけます。四季折々に変化する庭もお楽しみください。

25 落谷虹児記念館

落谷虹児

新発田市中央町41117
0254(23)1013

落谷虹児は、新発田市の出身。大正から昭和にかけて活躍した挿絵画家・詩人です。日本画を学んでいた若き落谷虹児は、竹久夢二にその才能を見出され、挿絵画家としてデビュー。虹児の生涯を、戦前戦後、バリ時代までを代表作品で紹介。

28 阿賀野市立吉田東伍記念博物館

吉田東伍

阿賀野市保田17251
0250(68)1200

吉田東伍は日本全土の地名を網羅する『大日本地名辞書』を独力で編さんした歴史地理学のパイオニアです。彼はまた、世阿弥の伝書を発見し、能楽界に画期的貢献をするなど、日本文学史上ひととき異彩を放つ野人学者でした。

31 三条市歴史民俗産業資料館

長谷川嵐溪、村山半牧、大桃寛

三条市本町3114
0256(33)4446

当館は昭和10年建設の旧武徳殿（武道場）を利用した日本でも珍しい国登録有形文化財の資料館です。三条市の歴史や文化、産業を和洋折衷の建造物と共に学ぶことができます。是非お越しください。

34 長岡市河井継之助記念館

河井継之助

長岡市長町1丁目甲16751
0258(30)1525

河井継之助の生家跡に建つ記念館で、継之助が暮らした当時の面影が残る庭を眺めることができます。西国遊歴の際に記した旅日記『塵壺』や旅先の九州で購入した蓑などゆかりの品を多数展示しています。

35 新潟県立近代美術館

全般

長岡市千秋3-278-114
0258(28)4111

長岡市の「千秋が原ふるさとの森」にある美術館。地元の収集家による「大光コレクション」を軸に、近代の流れを見通せる国内作品や19世紀の西洋美術、県出身作家を主とした「新潟の美術」など、多くの名品がそろいます。

36 新潟県立歴史博物館

全般

長岡市関原町1丁目
字権現堂2247-2
0258(47)6130

常設展示では縄文展示を中心に新潟県の歴史と文化を紹介。昭和30年代の雪国の雁木通りや、縄文人の四季の暮らしを、実物大で復元しており、タイムスリップした気分を味わえます。様々なテーマによる企画展等も開催しています。

37 良寛の里美術館

良寛／由之／貞心尼

PASS 長岡市島崎3938
0258(74)3700

今年度は「良寛をめぐる人びとと良寛の魅力」「地域の所蔵品展」を企画。来年は良寛と貞心尼の初対面から二百年を迎えるに先駆け特別展として「はちすの露」をテーマに制作した書家内山玲子の作品を通して、良寛の魅力や思いはもろろんのこと、敬愛する人々の思いを探ります。

38

小千谷市ひと・まち・文化 共創拠点「ホントカ」

西脇順三郎 小千谷市本町1-13-35
0258(82)2724

西脇順三郎は日本の現代詩に大きな影響を与えた世界的な詩人で、ノーベル文学賞候補にも推薦されました。「ホントカ」内の西脇順三郎ライブラリーでは、西脇が著した詩集を中心に、絵画や自筆原稿など関係資料を展示しています。



■小千谷市立図書館が西脇順三郎生誕130年にあたる6年9月、市中心部に移転し、ユニークなコンセプトの「ホントカ」として開館。それに伴い、西脇コーナーも新しくなった。

新聞販売 折込総代理 広告代理 出版 保険代理



新潟日報 メディアネット
Niigata Nippo Media Net

■ 黒崎本社

〒950-1179 新潟市西区善久 772-2
新潟日報社黒崎本社内
TEL. 025-211-3555 (代表) FAX. 025-211-3556

■ 流通本社

〒950-1125 新潟市西区流通 3-1-1
TEL. 025-233-3311 (代表) FAX. 025-233-3700
<https://www.niigata-mn.co.jp>

お客様に感動を 社会と文化に貢献を

FUJIFILM 株式会社 新潟フジカラー

新潟市東区中央2丁目23番16号
TEL: 025-275-1341 FAX: 025-271-1402
<https://www.fuji-icom.co.jp>

ドコモショップ新潟南店 新潟市中央区上近江1-3-7 TEL: 025-288-0053
ドコモショップ新潟東店 新潟市東区新松崎1-7-5 TEL: 025-256-7522
ドコモショップ新潟中野店 新潟市東区若菜町2-4-5 TEL: 025-282-7752

にいがた元気+

にいがた 健活クラブ

会員募集中 入会費・年会費無料

新潟日報社では、県民が自立し健やかに暮らせるよう、「目指せ!!健康寿命日本一。にいがたプロジェクト」を展開しています。ともに学び健康づくりを実践する「にいがた健活クラブ」の会員を募集しています。あなたも健康寿命日本一を目指すメンバーになりませんか。



会員特典

- ①メルマガの配信(月2回)
- ②にいがた健活講座のアーカイブ限定公開(年3回)
- ③健康グッズなどプレゼント

会員登録の方法



こちらからお申し込みいただけます。

にいがた 健康寿命 検索



◎お問い合わせ

健寿プロジェクト事務局(新潟日報社 統合営業本部内) 〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1

TEL.025(385)7432(土日祝日を除く10:00~17:00) メール:genkiplus@niigata-nippo.co.jp

39

ドナルド・キーン・センター 柏崎
ドナルド・キーン

0257(28)5755
0257(28)5755

日本文学研究者のドナルド・キーンをその周辺から紹介しています。昨年新設した企画展示室にて、今年は「ドナルド・キーンと写真集『鎌鼬』『ドナルド・キーンと平和』など年間3回の企画展の開催を予定しています。

40

魚沼市 宮校二記念館

宮校二

PASS 魚沼市堀之内117-6
025(794)3800

魚沼の風土が育んだ昭和を代表する歌人宮校二の遺品や図書資料を収蔵・公開しています。校二の書齋を再現する常設展、テーマに基づく企画展、宮校二講座と短歌セミナー、月例短歌教室などを開催しています。宮校二記念館全国短歌大会は三十一回目を迎えます。

41

池田記念美術館

池田恒雄／その他

025(780)4080
025(780)4080

スポーツ専門誌を創刊し出版業界で活躍した池田恒雄がコレクションした美術品やスポーツ関係資料を収蔵、展示しています。その他、文豪小泉八雲の手紙や遺愛の品などを展示する小泉八雲文学資料室もあります。また、企画展を毎年数多く開催しています。

42

鈴木牧之記念館

鈴木牧之

PASS 南魚沼市塩沢1112-2
025(782)9860

豪雪地に生まれた鈴木牧之は、雪深い生活を伝えるため雪の本『北越雪譜（天保8年刊）』を出版しました。雪国の民俗習慣、伝説、産業などについて著された本書は、江戸でベストセラーとなり、当館を代表する展示となっています。

43

南魚沼市トミオカホワイต์美術館

富岡惣一郎

PASS 南魚沼市上薬師堂142
025(775)3646

上越市高田出身の洋画家・富岡惣一郎が描いた「白の世界」シリーズを展示しています。雪の白に魅了され、自ら開発した白油絵の具「トミオカホワイต์」と独自の技法で表された白の美をご覧ください。

44

良寛記念館

良寛

0258(78)2370
0258(78)2370

良寛記念館は、僧侶で書家・歌人でもあり「越後の英雄」と呼ばれた良寛の出生地の出雲崎町にある美術館です。年に3回ほどの企画展を行い「日本書道の究極美」といわれる良寛の遺墨を、紹介しています。

ニッポンの朝が見える。



月-金
あさ5:20-8:00

BSn

新潟税理士法人 深滝合同事務所

代表社員（税理士） 磯部 利行
副所長（税理士） 根本 昌幸
副所長（税理士） 上田 英明
税理士 星野 拓也

■公益認定・移行申請手続支援業務
■指定管理者申請手続支援業務
■法人税・所得税・相続税・各種会計指導・適正税制・公益法人会計・税務申告・各種税金申告相談等
■経営計画・資金計画・経営指導・生命保険・損害保険等



〒950-2024 TEL: 025-267-4843 FAX: 025-265-3314
新潟市西区小新西3丁目15番7号 URL: https://nigata-zeirishi.tkcnf.com/

令和6年度年度法人パスポート会員、維持会員、及び協力企業（50音順）
熱いご支援ご協力に 心から感謝申し上げます

イワコンハウス新潟株式会社、株式会社NST新潟総合テレビ、岡三にいがた証券株式会社、グリーン産業株式会社、クリエイティブ・サポート株式会社、株式会社コム、株式会社新宣、セコム上信越株式会社、株式会社DI Palette、株式会社大光銀行、株式会社第四北越銀行、田村紙商事株式会社、長岡造形大学、新潟県信用組合、新潟総合警備保障株式会社、国立大学法人新潟大学、株式会社新潟日報社、一般財団法人新潟日報美術振興財団、株式会社新潟放送、公益財団法人ビー・エス・エヌ教育文化振興基金、新潟税理士法人深滝合同事務所、株式会社ブルボン、株式会社本間組



総合広告会社

株式会社
フジ・クリエイティブセンター

〒950-0993 新潟市中央区上中3丁目11番8号
Tel.025-283-6000

https://www.fuji-cc.co.jp

45

湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」

川端康成／その他

PASS
湯沢町大字湯沢354-1
025(784)3965

川端康成の小説『雪国』の情景を描いた日本画ギャラリーや、駒子のモデルといわれる芸者・松栄が昭和初期に住んだ部屋の一部を移築再現した「駒子の部屋」が見所。土器や古銭のほか、民具や農具も展示しています。

48

小林古径記念美術館

小林古径

上越市本城町7-1(高田城址公園内)
025(523)8680

小林古径の作品とともに、上越市ゆかりの作家の作品を収集・展示する美術館です。東京都大田区南馬込から移築復元した小林古径邸と、再現された古径の画室もあわせてご覧いただけます。

51

前島記念館

前島密

上越市下池部1317-1
025(524)5550

本館の横に立つ石碑は表は渋沢栄一書背面には坪内逍遙、市島謙吉、會津八一の撰文による「日本文明の一大恩人がこゝで生まれた」の書き出しで功績が刻まれています。「日本近代化の父」に相応しい人格者です。

46

岩の原ワイナリー
川上善兵衛記念館

川上善兵衛

上越市大字北方1223
025(528)4002

岩の原葡萄園の創業者であり、「日本のワインぶどうの父」川上善兵衛が取り組んだぶどうの品種交雑やワイン造りの歴史がテーマ別に展示されています。

49

坂口記念館

坂口謹一郎

上越市頸城区鶴ノ木148
025(530)3100

応用微生物学の世界的権威で「酒博士」として知られる坂口謹一郎博士の功績と酒造り道具の展示のほか、敷地内の雪椿の開花にあわせ4月1日から20日まで「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」を開催します。

52

糸魚川歴史民俗資料館
《相馬御風記念館》

相馬御風

PASS
糸魚川市一の宮1-2-2
025(552)7471

明治から昭和にかけて多彩に活躍した郷土の文人・相馬御風の関係資料を中心に収蔵・展示しています。企画展も随時開催しています。糸魚川駅近くの県史跡相馬御風宅にもぜひご来館ください。

47

小川未明文学館

小川未明

上越市本城町8-30 高田図書館内
025(523)1083

「日本近代童話の父」といわれる小川未明のおいちゃや業績、作品が生まれた背景などを紹介しています。未明童話を体験できる仕掛けもあり、毎月第2、第4日曜日にはお話し会を開催しています。

50

上越市立歴史博物館

「越後の都」の歴史

上越市本城町7-7(高田城址公園内)
025(524)3120

常設展示では、「越後の都」をテーマに高田城と地域の歴史について資料はもちろん、模型やVR映像を使ってわかりやすく紹介しています。令和7年度は「戦後80年記念 上越と戦争の記憶(仮称)」などの企画展を開催する予定です。

編集後記

〇：吉田東伍は図書館に1日行けば、家で1週間は原稿書きができたという。そして一人で4万項目の地名辞書を編さん。超人的能力としか言いようがない。

〇：横山さんの講演で、新潟日報が県展や紙面を通して本県の文化振興に大きな役割を果たしてきたことを改めて実感。紙面を飾った作家の顔ぶれがすごい。

〇：何でも電子化の時代だが、展覧会ではチラシやポスターは必要というご意見多数。「目に触れる」ポスター、「手に取れる」チラシ。スマホにはない強みだ。(高)

利用案内

●開館時間

午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間
※事情により臨時休館場合があります。

●入館料

一般 500円(400円)
学生(高校生以上) 300円(240円)
中学生以下無料※(一)内は団体20名以上
※団体観覧は当館までご連絡ください。

●交通のご案内

新潟駅から…タクシ― 約5分
徒歩 約15分
新潟空港から…タクシ― 約15分

にいがた文化の記憶館

〒950-0088
新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5階
TEL 025(250)7171
FAX 025(250)7040
<http://nmnc.jp>